

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3671300444 | | |
| 法人名 | 医療法人敬和会 | | |
| 事業所名 | グループホーム那賀川たんぽぽ | | |
| 所在地 | 徳島県阿南市那賀川町今津浦71-1番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年2月13日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年3月3日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田んぼや畑に囲まれた静かな環境の中で季節の変化や空気を感じて頂きながら過ごして頂ける様に努めています。行事や季節、好みに合わせた献立を立て、旬の食材を使用してひとり一人の体調や嚥下状態を見ながら、いちばんの楽しみである食事を楽しんで頂いています。コロナの影響で外出・面会自粛中ですが、家族とも連絡を取り合い、その中で職員との会話の時間や季節の庭の花を見て日向ぼっこをしたり、お誕生会、おやつレク・ドライブで車の中からの景色を見て頂く等、出来る事を考え工夫しています。医療との連携も整い、主治医の往診や医師を交えた同系列のグループホームとの合同カンファレンスで情報交換やアドバイスにより利用者の健康管理やケアに繋げています。家庭的な温かい雰囲気の中で安全に穏やかに過ごして頂けることを想いながら支援をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田畑に囲まれた、自然豊かな環境に位置している。事業所独自の理念として“高齢者の尊厳をお守りし、家庭的な生活をお手伝いします。”、“地域の皆様と連携し地域に貢献する事をめざします。”の2つを掲げ、利用者一人ひとりの気持ちや生活歴に寄りそいつつ、地域を大切にしたい支援に取り組んでいる。毎月、事業所だよりを発行し、利用者家族や地域の民生委員、駐在所など、幅広く配付することで、地域との交流のきっかけとしている。また、近隣住民から野菜の差し入れを受けたり、小・中学校と交流したりして、日常的に交流している。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、活動が制限されるなかでも、事業所周辺の散歩や家庭菜園など、利用者が職員と一緒にできることを創意工夫し、取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 1F 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 月初めの朝礼時に理念を唱和し、理念の意味を振り返っている。ユニット毎に理念を掲示し意識づけを行い実践に繋げるよう努めている。 | 事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。毎月の朝礼の際に理念を唱和したり、ユニットごとに理念を掲示したりして、職員間での共有化を図り、実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 現在はコロナの関係で交流の機会が少なくなっているが毎月の事業所便りの配布は継続して行い、民生委員や駐在所、ご近所等との情報交換を行っている。 | 事業所では、毎月、事業所便りを作成し、民生委員や地域住民に配付して、事業所の様子を伝えている。感染症(コロナ等)の流行下においても、近隣農家から野菜の差し入れを受けるなど、地域との交流を継続している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や日頃の近所付き合い等を通じて認知症への理解や利用者の暮らしぶりを理解して頂ける様務めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度運営推進会議を行っている。コロナの関係により事業所の活動内容、報告等を配布して電話等で意見や要望、質問等を伺いサービス向上に務めている。 | 2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、書面を各委員に送付して、事業所の現況を伝えている。電話等で聞き取った意見は、サービスの質の向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市窓口担当を訪問し事業所便りを届けている。その際事業所の利用状況や活動状況を伝え質問や相談はその都度対応して頂いている。 | 管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問し、事業所の状況報告を行っている。訪問時に、制度に関する不明点等があれば、相談し、助言を得ている。感染症の流行下においても、予防方法や会議の開催等についてアドバイスを受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての研修会を行い、全職員が身体拘束にの内容及弊害を認識して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。職員が意見を出し合いその人らしい生活をして頂ける様取り組んでいる。 | 事業所では、定期的に、身体拘束に関する研修会や委員会を開催し、職員間の意識の共有化を図っている。委員会は、運営推進会議と同時開催することで、外部からの意見も得ている。日中は玄関を開放するなど、利用者の自由な暮らしに向けて支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員研修等を通じて理解を深めている。チェックリストを用いて、職員それぞれの日々の介護内容を見直し、話し合い、虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 1F 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 市や民生委員等から情報や知識を得たり、研修や資料により必要とされる利用者に活用出来る様に努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 家族や利用者に十分に説明を行い同意を得た上で理解、納得され契約している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者や家族が話しやすい雰囲気や関係が出来る様務め意見や要望を伺っている。出された要望等は職員全員が把握共有し運営や支援に反映出来る様務めている。 | 職員は、利用者や家族等が話しやすい雰囲気づくりに努めている。感染症の流行下においても、面会用のスペースを設けるなど、安全面に配慮しつつ、意見を聞き取るよう工夫している。電話やお便りによる連絡も小まめに取っている。出された意見等について協議し、運営面に反映している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は毎朝のミーティング時や反省会等で意見交換を行っている。また気づきやアイデアはその都度話し合い、試してみても運営や支援に繋げている。 | 管理者は毎朝のミーティング時において、職員との意見交換を図り、出された意見を事業所運営に活かしている。代表者も定期的に事業所を訪問し、職員と意見交換や事業運営について助言を行っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員一人ひとりの実績や努力を昇給に反映させ、向上心ややりがいを持って仕事が出来様に職場環境の整備に務めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月施設内研修を行い職員の技術や知識を身に付ける様務めている。それぞれに役割を持ち意識の向上に繋げている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同系列のグループホームとの交流会（現在は休止中）を行い親睦を深め情報交換をしてサービスの質の向上に繋げている。月に一度の合同カンファレンス時等に意見交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 1F 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご家族等や本人よりこれまでの生活状況や嗜好、要望を伺い把握し観察して、安心して生活が出来る様務めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前よりご家族と話し合いを行い、不安や困っている事等の要望を伺い、普段より何でも話し合える様な関係作りに務め対応が出来る様している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人やご家族と話し合い、必要としている支援を見極めて必要に応じて可能な他のサービスの利用も出来るよう支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に生活する中で、何でも話が出来て、家族のように喜怒哀楽を分かち合える様な関係づくりに務めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月、家族に送付する事業所便りで、利用者それぞれの担当の職員が日々の様子や気づきを伝えている。ご家族との連携を図り共に利用者を支援出来るよう務めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域の行事やオレンジカフェに参加している(現在は外出・面会自粛中)車の中から景色を見たり、職員との会話で昔の事や友達、親戚の話等をしてこれまでの人間関係や社会との関係を思い出して頂いている。 | 事業所では、友人や知人、馴染みの理容師等の来訪を受け入れるなど、利用者が大切にしてきた関係性の継続に努めている。感染症の流行下においても、馴染みの場所へのドライブ等により、支援に取り組んでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共に生活する中で、利用者一人ひとりの性格や利用者同士の関係を見極め会話の中に入ったり、レクリエーションをして、見守りしながら孤立せず共に楽しめる様務めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 1F 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行い、他の事業所にも移る場合も情報交換を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 共に生活をする利用者とかかわりの中でその時々状況、様子から希望や意向の把握に努めている。利用者の立場になりその人らしい暮らしが出来る様支援している。 | 職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等の把握に努めている。入居時には、本人の嗜好等を家族等から聞き取っている。聞き取った情報は、職員間で共有化を図り、運営面に反映している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人との会話やご家族から情報収集を行い今までの生活歴を把握してその人らしい生活が出来る様務めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 常に利用者一人ひとりの心身状態の把握に努め確認、記録を行い職員が共有している。生活する中で小さな気づきや有する力を見出し生かせる様支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎週木曜日にケアカンファレンスを行い、家族や職員の気づきを基に意見を出し合い3ヶ月毎に見直しをして現状に応じた介護計画を作成している。 | 事業所では、利用者や家族等の意見を踏まえた介護計画書を作成している。“利用者本人のためになること”を中心に、医師や看護師等の意見も計画に反映している。また、定期的に見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者一人ひとりの個人ファイルを作成し、毎日の様子や状況、気づき等を記録し全職員が情報を共有しながらケアに繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族との連携を図り利用者一人ひとりに適したサービスが提供出来る様に務めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 1F 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議には警察官、民生委員、市役所や地域包括支援センターの職員、婦人会、ご近所の方等が参加して情報交換を行い(現在は文書を配布して意見を伺う)協力体制を築き利用者が安心して暮らせる様に務めている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医の訪問診療があり、緊急時の協力体制も整っている。協力歯科の訪問診療があり、協力医療機関での受診を希望される家族が多い。かかりつけ医や整形外科等専門医を受診される時は家族や職員が付き添っている。 | 事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医を受診する際は、家族等の協力を得ている。定期的に、協力医療機関からの訪問診療等があり、適切な医療を受けることができる体制を整備している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日頃の利用者の状態の変化や異常の早期発見に努め常に看護職や訪問看護と連携し相談、援助を受けている。訪問介護と24時間連携体制を整え適切な医療支援に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関との連携が充実しており入院時は家族と相談し安心して入院治療が受けられる様支援している。他の医療機関に入院する場合は本人に対する情報提供を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の方針について契約時に本人や家族に説明を行い同意を得ている。状態の段階毎に医師、看護、家族との連携を図りながらより良い支援が出来る様務めている。 | 事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期における指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者や家族等の希望に応じて、各関係機関の協力を得つつ、看取り支援も行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時に適切な対応や連絡が出来る様普段から話し合い共有している。職員研修時等に定期的に訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回防災、避難訓練を実施し、気づきや問題点の話し合いを行っている。防災計画も作成し日頃から地域の方々や警察官、市の職員等とも協力体制を築いている。食料品や飲料水等も準備している。 | 事業所では、年2回、避難訓練を実施している。火災や地震、水害等を想定し、利用者とともに垂直避難を行うなど、実践的に取り組んでいる。地域住民等の協力を得ることができるよう、働きかけを行っている。また、備蓄も3日分準備して、災害時に備えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 1F 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 理念の通り利用者一人ひとりの尊厳と権利を守る事を基本に全職員が実践出来る様務めている。利用者の立場になった支援が出来る様普段から言葉かけや対応に気をつけている。 | 事業所では、独自の研修計画をもとに、権利擁護等に関する研修会を開催し、職員間の理解を深めている。職員は、利用者一人ひとりの気持ちに寄りそい、尊厳やプライバシー等に配慮した支援に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 共に生活する中で一人ひとりの性格や嗜好等を把握し、どうしたいか、何がしたいか等の希望を聞き取り、表情や動きより読み取ることが出来る努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりのペースに合わせ、体調や気分に応じた生活ができる様に努めている。職員側の決まりや都合を優先してしまっている時もあるので状況に応じて利用者の立場に立った対応ができる様に支援したい | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 事業所に出向いて来てくれる美容師を利用したり面会時にご家族がカットされる利用者もある(現在は来苑、面会自粛中)が今は職員がカットしている。一人ひとりの好みに合わせてその人らしい身だしなみが出来る様支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節や行事に合わせた献立をたて、何が食べたいか希望を聞き、体調、好み、嚥下の状況、病状等に合わせた食事を提供している。同じテーブルで職員と食事を摂り調理や洗い物等出来る事を共にして頂いている。 | 食事は、三食、手づくりのものを提供している。季節感や栄養面を考慮して、献立を決めている。野菜の皮むきなどは、利用者一人ひとりのできることにあわせて一緒に取り組んでいる。また、誕生日には、好きなものやケーキをつくるなど、食事を楽しむことができるよう工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者の嚥下状態や体調、病状に合った食事内容、食器等工夫している。利用者の好みや習慣、食べ方等を把握して食事を提供出来る様務めている。食事や水分量、体重のチェックを行い健康管理を把握共有している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行っている。声かけを行い自力で出来る人は見守りし、出来ない人は介助、口腔ケア用のウエットティッシュを使用、週一度入れ歯洗浄剤を使い清潔を保っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 1F 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 生活習慣、排泄チェック表の活用により一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行い安心してトイレでの排泄が出来る様支援している。身体機能に応じたトイレ介助を行っている | 事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握した情報に基づいて、水分調整やトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間もポータブルトイレ等を活用し、できる限りトイレで排泄できるよう工夫している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を用い一人ひとりの排便の状況を把握している。毎朝乳製品を摂取して頂き野菜を多く取り入れた献立をたてている。生活活動や機能訓練により運動不足の改善に務めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者一人ひとりの希望や身体機能、体調に合わせて入浴を行い、浴槽につかれたり、シャワー浴、チェア浴、足浴を行っています。季節にあわせて菖蒲湯や柚子湯も楽しんで頂いている。 | 事業所では、週3回は入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの心身状況にあわせて、協力医療機関等の助言を得つつ、シャワー浴や足浴を行っている。入浴拒否がある場合は、声をかけるタイミングや人を変えるなど、本人に負担がないよう配慮している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調や一人ひとりの生活習慣を把握し休んで頂いています。自然な生活リズムが出来る様日中の過ごし方やかわり方、対応を考えその人に合った睡眠や休息が出る様に務めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者一人ひとりの服薬ファイルを作成し全職員が服薬の方法、効能、副作用等を把握し共有している。服薬時は飲んでいるか確認を行い薬の変更時は体調、症状の変化に気をつけている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | これまでの生活歴や共に生活する中で楽しみや嗜好を見出し台所の手伝いや縫い物等利用者の経験や知恵が発揮出来るように務めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナの影響で現在は外出自粛中ですがドライブして車の中からの景色を楽しんだり、職員が希望の物の買い物を行ったり事業所の庭に出て外気浴を行っています。今出来る事を工夫し行っています。 | 事業所では、利用者一人ひとりの希望にあわせて外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、事業所の周辺を散歩したり、敷地内で家庭菜園を行ったりして、外に出る機会を設けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 1F 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一人ひとりの希望や力に応じて家族と相談しそれぞれに応じた管理方法を決めています。買いたい物や必要な物にお金を使える様支援しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族の協力を得てプライバシーに配慮しながら電話や手紙を出す為の支援をしている。年賀状は利用者の力に合わせ書いて頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 台所からは包丁の音や調理の匂いを感じて自宅にいるような家庭的な雰囲気でもらえるように務めている。玄関や庭には季節の花や観葉植物を置き季節を感じて頂いている。壁面も季節毎に工夫している。 | 共用空間の窓は大きく、日光が差し込み、明るい。壁面には、四季ごとの飾り付けを行い、季節感を感じることができる。感染症の流行下において、利用者の希望に応じて、小さな鳥居を飾るなど、工夫している。また、手作りのパーティションを机ごとに設置するなど、安全面にも配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 仲の良い気の合った利用者が話ができる様テーブルの席の場所にも配慮している。玄関や2階の踊り場にソファを置きくつろがれたり、日向ぼっこをされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 和室と洋室がありこれまでの生活歴や身体状況により配慮している。自宅で使っていたなじみの物や好きなものをもちこんでもらい安心して居心地よく過ごしてもらえる様務めている。 | 居室には、利用者にとって馴染みのある家具や写真等を持ち込んでもらっている。できる限り、本人が住んでいた環境と近い環境で過ごしてもらおうことができるよう、家具の配置などを配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや居室等の場所がわかる様に名前を書いたり一人ひとりに合わせた生活ができる様職員が意見を出し合い安全な環境作りに務めている | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|-------------------|-----|--|--|------|------|
| | | | 2F 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 月初めの朝礼時に理念を唱和し、理念の意味を振り返っている。ユニット毎に理念を掲示し意識づけを行い実践に繋げるよう努めている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 現在はコロナの関係で交流の機会が減っているがご近所さんから野菜を頂いたりいつも気にかけて頂いている。民生委員や駐在所との情報交換も行っている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や日頃の近所付き合い等を通じて認知症への理解や利用者の暮らしぶりを理解して頂ける様務めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度運営推進会議を行っている、コロナの関係により事業所の活動内容、報告等を配布して電話等で意見や要望、質問等を伺いサービス向上に務めている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市窓口担当を訪問し事業所便りを届けている。その際事業所の利用状況や活動状況を伝え質問や相談はその都度対応して頂いている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての研修会を行い、全職員が身体拘束にの内容及弊害を認識して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員が意見を出し合いその人らしい生活をして頂ける様務めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内研修等で虐待防止の研修を行い学ぶ機会を多く持ち利用者の立場に立った支援が出来る様務めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|-----|--|---|------|------|
| | | | 2F 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 市や民生委員等から情報や知識を得たり、研修や資料により必要とされる利用者に活用出来る様に努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 家族や利用者に十分に説明を行い同意を得た上で理解、納得され契約している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者や家族からの意見や要望は職員全員で話し合い記録を残して意見を反映出来る様務めている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日の申し送り時やいつでも職員と意見交換できるようにしている。気づきや意見アイデアを反映出来る様務めている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員一人ひとりの実績や努力を昇給に反映させ、向上心ややりがいを持って仕事出来る様に職場環境の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月施設内研修を行い職員の技術や知識を身に付ける様務めている。それぞれに役割を持ち意識の向上に繋げている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同系列のグループホームとの交流会（現在は休止中）を行い親睦を深め情報交換をしてサービスの質の向上に繋げている。月に一度の合同カンファレンス時等に意見交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------|-----|--|--|------|------|
| | | | 2F 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者の不安や疑問を解消し安心して頂ける様家族と話し合い、より良い関係づくりに務めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に家族や利用者から要望や意見を聞き取り信頼関係を築いていける様務めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人やご家族と話し合い、必要としている支援を見極めて必要に応じて可能な他のサービスの利用も出来るよう支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に生活する中で、何でも話が出来て、家族のように喜怒哀楽を分かち合える様な関係づくりに務めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月、家族に送付する事業所便りで、利用者それぞれの担当の職員が日々の様子や気づきを伝えている。ご家族との連携を図り共に利用者を支援出来るよう務めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域の行事やオレンジカフェに参加している(現在は外出・面会自粛)車の中から景色を見たり、職員との会話で昔の事や友達、親戚の話等をしてこれまでの人間関係や社会との関係を思い出して頂いている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共に生活する中で、利用者一人ひとりの性格や利用者同士の関係を見極め会話の中に入ったり、レクリエーションをして、見守りしながら孤立せず共に楽しめる様務めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------------|------|--|--|------|------|
| | | | 2F 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行い、他の事業所にも移る場合も情報交換を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員が意見を出し合い利用者の立場になりその人らしい生活が出来る様務めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や本人から情報収集を行い、これまでの生活歴を把握し、有する力や経験を発揮出来る様支援している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 常に利用者一人ひとりの心身状態の把握に努め確認、記録を行い職員が共有している。生活する中で小さな気づきや有する力を見出し生かせる様支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎週木曜日にケアカンファレンスを行い、家族や職員の気づきを基に意見を出し合い3ヶ月毎に見直しをして現状に応じた介護計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者一人ひとりの個人ファイルを作成し、毎日の様子や状況、気づき等を記録し全職員が情報を共有しながらケアに繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族との連携を図り利用者一人ひとりに適したサービスが提供出来る様に務めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|--|------|------|
| | | | 2F 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議には警察官、民生委員、市役所や地域包括支援センターの職員、婦人会、ご近所の方等が参加して情報交換を行い(現在は文書を配布して意見を伺う)協力体制を築き利用者が安心して暮らせる様に務めている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医の訪問診療があり、緊急時の協力体制も整っている。協力歯科の訪問診療があり、協力医療機関での受診を希望される家族が多い。かかりつけ医や整形外科等専門医を受診される時は家族や職員が付き添っている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日頃の利用者の状態の変化や異常の早期発見に努め常に看護職や訪問看護と連携し相談、援助を受けている。訪問介護と24時間連携体制を整え適切な医療支援に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関との連携が充実しており入院時は家族と相談し安心して入院治療が受けられる様支援している。他の医療機関に入院する場合は本人に対する情報提供を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の方針について契約時に本人や家族に説明を行い同意を得ている。状態の段階毎に医師、看護、家族との連携を図りながらより良い支援が出来る様務めている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時に適切な対応や連絡が出来る様普段から話し合い共有している。職員研修時等に定期的に訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回防災、避難訓練を実施し、気づきや問題点の話し合いを行っている。防災計画も作成し日頃から地域の方々や警察官、市の職員等とも協力体制を築いている。食料品や飲料水等も準備している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2F | 自己評価 | 自己評価 |
|----------------------------------|------|--|--|----|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その人らしい生活が出来る様支援している。自分の親と思いながら言葉かけや対応を行い気持ちよく生活して頂ける様務めている | | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 共に生活する中で一人ひとりの性格や嗜好等を把握し、どうしたいか、何がしたいか等の希望を聞き取り、表情や動きより読み取ることが出来る努めている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりのペースに合わせ、体調や気分配慮した生活ができる様に努めている。職員側の決まりや都合を優先してしまっている時もあるので状況に応じて利用者の立場に立った対応ができる様に支援したい | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝一人ひとりに合わせて洗面介助を行っている。服も何が着たいかを聞いて着るように務めている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節や行事に合わせた献立をたて、何が食べたいか希望を聞き、体調、好み、嚥下の状況、病状等に合わせた食事を提供している。同じテーブルで職員と食事を摂り調理や洗い物等出来る事を共にして頂いている。 | | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者一人ひとりの体調や疾病、嚥下状態に合わせて調理を行っている。食事量や体重の増減等を把握し、介助方法や食器等を工夫している。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食事の前にお口の体操を行っている。毎食後声かけを行い自力で出来る人は見守りをし、困難な方は介助を行い、一人ひとりに合った口腔ケアの支援をしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2F | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|----|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 生活習慣、排泄チェック表の活用により一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行い安心してトイレでの排泄が出来る様支援している。身体機能に応じたトイレ介助を行っている | | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を用い一人ひとりの排便の状況を把握している。毎朝乳製品を摂取して頂き野菜を多く取り入れた献立をたてている。生活活動や機能訓練により運動不足の改善に務めている。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者一人ひとりの希望や身体機能、体調に合わせて入浴を行い、浴槽につかれたい、シャワー浴、チェア浴、足浴を行っています。季節にあわせて菖蒲湯や柚子湯も楽しんで頂いている。 | | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調や一人ひとりの生活習慣を把握し休んで頂いています。自然な生活リズムが出来る様日中の過ごし方やかわり方、対応を考えその人に合った睡眠や休息が出る様に務めている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者一人ひとりの服薬ファイルを作成し全職員が服薬の方法、効能、副作用等を把握し共有している。服薬時は飲んでいるか確認を行い薬の変更時は体調、症状の変化に気をつけている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者一人ひとりの有する力に応じて縫い物や台所の手伝い等経験や知恵を發揮して頂ける様支援している。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナの影響で現在は外出自粛中ですがドライブして車の中からの景色を楽しんだり、職員が希望の物の買い物をしたり事業所の庭に出て外気浴を行っています。今出来る事を工夫し行っています。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2F | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|--|---|----|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一人ひとりの希望や力に応じて家族と相談しそれぞれに応じた管理方法を決めています。買いたい物や必要な物にお金が使えよう様支援しています。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族の協力を得てプライバシーに配慮しながら電話や手紙を出す為の支援をしている。年賀状は利用者の力に合わせ書いて頂いている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 2階より外の景色を見たり、テレビを見たり利用者同士で話を楽しまれ、ゆったりと過ごされるように務めている。調理の匂いや音、季節の花で自宅の延長で過せ、壁面も季節を感じてもらえる様工夫している。 | | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 仲の良い気の合った利用者が話ができる様テーブルの席の場所にも配慮している。玄関や2階の踊り場にソファを置きくつろがれたり、日向ぼっこをされている。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 和室と洋室がありこれまでの生活歴や身体状況により配慮している。自宅で使っていたなじみの物や好きなものを持ちこんでもらい安心して居心地よく過ごしてもらえる様務めている。 | | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや居室等の場所がわかる様に名前を書いたり一人ひとりに合わせた生活ができる様職員が意見を出し合い安全な環境作りに務めている | | | |